

平成22年度事業成果報告書（長期優良住宅等推進環境整備事業）

<p>事業分野 住替え・二地域居住を推進するための住宅の再生、流通の促進等を行うモデル事業</p>	
<p>事業名 高津川流域型“都市と田舎の二地域居住”推進事業</p>	<p>事業主体名 清流高津川を育む木の家づくり協議会</p>
<p>1. 事業のあらまし</p> <p>(1) 概要</p> <p>都市と農村を結ぶ二地域居住の普及促進のため、養老孟司先生の“現代の参勤交代論”の実現を目指し、シンポジウム、地域座談会等を開催し、高津川流域において、国の成長戦略のモデルともなり得るような取組みを実践する。</p> <p>具体的なコンセプトとして、都市と農村を結ぶ二地域居住の普及促進を図り、高津川流域材を使用した体験宿泊型クライנגアルテンの整備を推進することで、定住、地域経済の活性化にまでつながる起爆剤とする。</p> <p>1) 高津川流域型「都市と田舎の二地域居住」推進部会の設置・開催</p> <p>取組みを進めるため外部委員等から総合的にアドバイスをいただき、二地域居住を推進する上での具体的な内容を検討・協議する部会を5回開催した。</p> <p>2) 二地域居住型（高津川流域型）クライングアルテンの整備のための調査</p> <p>① 地域選定調査の実施</p> <p>都市と農村を結ぶ二地域居住の普及促進のため、益田市の各地区振興センター（公民館）で有機農業や高津川流域材活用を視点とした体験宿泊型クライングアルテンの整備に資するモデル地域の選定調査、意向調査等を実施したことにより6地区を選定することができた。</p> <p>また、外部委員とともに選定地区を調査したことにより、匹見上地区でのクライングアルテン構想をイメージすることができた。</p> <p>② クライングアルテン（ラウベ）整備に係る視察研修会の開催</p> <p>全国の滞在型クライングアルテンや有機農業等の推進に係る先進的な事例を見て学ぶため、県内県外での視察研修会を開催し、また、「第6回“木の家づくり”から林業再生を考える委員会」に参加することで、高津川流域にあったクライングアルテンのイメージ作りを具体的に進めていくことができた。</p> <p>③ 養老孟司先生の“現代の参勤交代論”（二地域居住）の実現を目指すモニターツアーを開催。</p> <p>二地域居住（クライングアルテン整備）推進の参考とするため、モデル地域選定調査を踏まえた益田市6地区及び津和野町、吉賀町において、実際に関西圏、関東圏、広島県からモニターツアー客を招き、ラウベモデル見学、農業体験及びアンケート調査等を行うことで、二地域居住の可能性を探ることができた。</p> <p>3) シンポジウム、集落座談会の開催</p> <p>① シンポジウム「現代の“参勤交代”と木の家づくりを考える」の開催</p>	

「日本に健全な森をつくり直す委員会」との共催により400人参加の啓発シンポジウムを開催したことで、高津川流域圏の住民に、都市と農村を結ぶ二地域居住の効果がPRされ、現代の参勤交代、二地域居住という新たな切り口による高津川流域の活性化に向けた気運が醸成された。

② 養老孟司先生の現代の参勤交代論（二地域居住）を考える集落座談会の開催

座談会講師として作家天野礼子氏を招き、選定した6地区での集落座談会を開催し、地域住民とともに、二地域居住、有機農業等に関する意見交換会を開催したことで、地域住民に対して、二地域居住に対する農村の役割について気づかせることができ、さらに高津川流域の地域活性化に向けての普及啓発を図ることができた。

4) 広報活動

① 県・市町ホームページ等により、清流高津川を育む木の家づくり協議会による二地域居住推進のための取り組みや、都市等への空家バンク制度等の情報発信を行った。

② 「現代の“参勤交代論”二地域居住のすすめ」高津川流域ノートを作成し、高津川流域の情報や高津川流域での二地域居住の魅力などを情報発信することができた。

(2) 実施期間 平成22年7月16日～平成23年3月8日

(3) 事業に要した経費

総事業費：9,799,683円 補助金の額：9,500,000円

2. 事業の実施結果（成果）

(1) 高津川流域型「都市と田舎の二地域居住」推進部会の設置・開催

開催日：平成22年 7月20日
平成22年 8月27日
平成22年 9月14日
平成22年10月12日
平成22年11月 8日

(2) 地域選定調査の実施（平成22年10月25日～平成22年10月29日）

選定地区：安田地区、北仙道地区（赤雁の里）、種地区、真砂地区、都茂地区、匹見上地区
調査表：別紙のとおり
匹見上地区でのクラインガルテン構想：別紙のとおり

(3) クラインガルテン（ラウベ）整備等に係る視察研修会の開催

実施日：平成22年8月11日
開催場所：島根県飯南町／志都の里
参加者数：18名

実施日：平成22年8月24日
開催場所：山口県錦町／グリーンピアやまざと
：山口県周防大島町／ガルテンヴィラ大島
参加者数：13名

実施日：平成22年10月12日～14日

開催場所：長野県松本市／坊主山ラインガルテン、緑ヶ丘ラインガルテン
：新潟県小千谷市／おぢやラインガルテン
：茨城県笠間市／笠間ラインガルテン

参加者数：13名

実施日：平成22年12月16日

開催場所：中央合同庁舎3号館10階・共用会議室

議題：二地域居住・都市居住で“木の家づくり”が促進される社会の課題について

参加者数：6名

実施日：平成23年2月8日～9日

開催場所：高知県土佐郡土佐町／有機のがっこう「土佐自然塾」

：高知県高知市／高知市有機市民農園

：愛媛県今治市／今治市における地産地消、食育、有機農業等の取組み

参加者数：14名

(4) 養老孟司先生の“現代の参勤交代論”（二地域居住）の実現を目指すモニターツアーの開催

実施日：平成22年12月3日～5日

開催場所：益田市・津和野町・吉賀町

参加者数：23名（東京都・町田市：2名、東京都・世田谷区：1名、神奈川県・川崎市：8名、
大阪府・高槻市：7名、大阪府・門真市：1名、大阪府・茨木市：2名、広島県・広島市：1名、広島県・廿日市市：1名）

内容：一日目

・益田市匹見町「匹見峡温泉」でのオリエンテーション

二日目

・益田市匹見上地区「わさび漬け体験」

・高津川森林組合「日原製材所視察」

・津和野町「日原道の駅」

・津和野町「稻成神社」視察

・津和野町「なごみ温泉でIターン者との意見交換」

・津和野町大陰地区で策定を進めている「小流域森林管理計画」のレクチャー

・吉賀町柿木村「有機農園での農業体験」

・吉賀町柿木村「小型木造住宅（ラインガルテン「ラウベ」モデル）見学」

・吉賀町六日市「民家レストラン「草の庭」での意見交換」

・吉賀町六日市「むいかいち温泉ゆらら」泊

三日目

・益田市安田地区「市民農園見学」

・益田市種地区「草もち作り体験」

・益田市北仙道地区「そばうち体験」

・益田市美都町都茂地区「ユズの収穫体験」

・益田市美都町道の駅（サンエイト美都）

・益田市真砂地区「豆腐作り体験」

※モニターツアーチラシ、アンケート結果、モニターレポート（別添のとおり）

- (5) シンポジウム「現代の“参勤交代”と木の家づくりを考える」の開催
実施日：平成22年10月17日
開催場所：島根県吉賀町立柿木体育館
参加者数：約400名
- (6) 養老孟司先生の現代の参勤交代論（二地域居住）を考える集落座談会の開催
実施日：平成22年11月29日
開催場所：益田市美都町都茂1692 ふれあいホールみと
参加者数：約40名
- 実施日：平成22年11月30日
開催場所：益田市大草町665-1 北仙道地区振興センター
参加者数：約50名
- (7) [現代の“参勤交代論”二地域居住のすすめ] 高津川流域ノートの作成・配布（1,000部作成）
掲載内容：清流高津川流域の森の紹介
清流高津川流域の里の紹介
養老先生の現代の“参勤交代論”の効用、目的
二地域居住モニターツアーの体験報告
二地域居住モニターツアーのアンケート結果
高津川流域への交通アクセスの紹介
高津川型クラインガルテンの紹介、提案
空き家をリノベーションするという発想
クラインガルテン視察報告
- (8) 二地域居住に関する取り組み及び空き家情報の発信、並びに空き屋情報の収集
「益田森林・林業普及情報」 http://blog.goo.ne.jp/f-masuda_001
「益田市HP」 <http://www.city.masuda.lg.jp/>
「津和野町HP」 <http://www.tsuwano.ne.jp/town/>
「吉賀町HP」 <http://www.town.yoshika.lg.jp/>

3. 事業実施の結果

(1) 成功点

- ① シンポジウムの開催や地域住民とともに集落座談会を開催したことで、都市と農村を結ぶ二地域居住の効果がPRされ、高津川流域材を用いた木の家づくり等の機運が高まった。
- ② 全国の滞在型クラインガルテンや有機農業等の推進に係る先進的な事例を研修したことで、高津川流域圏にある多様な地域資源を活用した、全国に無い「高津川流域型クラインガルテン」の整備推進気運を醸成することができた。
- ③ モニターツアーを開催し、都市住民との交流が図られたことで、流域住民にも自分の地域の魅力を再発見させる取り組みとなった。
- ④ [現代の“参勤交代論”二地域居住のすすめ] 高津川流域ノートを作成したことにより、ノートを活用しながら都市と農村を結ぶ二地域居住の普及促進を今後も効果的に図ることができる。
- ⑤ 民間事業者等が主体となって、古民家再生や空き家を活用した事業が新たに展開されるようになった。

⑥ 高津川流域の総合的な地域活性化を目指し、内閣府の「地域活性化総合特区」申請等による新たな事業への取組みが、他の関係者も巻き込んで検討されるようになった。

(2) 残された課題

① 「二地域居住」の次にある「定住」を目指すためには、空き家の有効活用が必要となってくる。しかし、中山間地域においては、他人に貸したくないなどの理由で空き家の確保が困難な状況であることから流域住民の意識の醸成が必要となってくる。

② クラインガルテン（有機市民農園）を開設し、そこに都市居住者を通わせるためには流域住民の意識改革を行うことや有機農法を教えてくれる指導者の確保、担い手の育成が必要となってくる。

4. 今後の見通し

全国のクラインガルテンを視察していく中で、先進地においては有機農業が一つのキーワードとなっている。

吉賀町柿木村では、約30年前から地域が一体となって環境にやさしい有機農業に取り組んできているが、益田市、津和野町においても、安全・安心な有機無農薬農産物の栽培を推進し、有機農業に対する流域住民の意識改革が必要となる。

今後は、市町村やNPOと連携し高津川流域に有機農法指導者のいるクラインガルテン「有機市民農園」の開設を目指し、有機無農薬栽培、緑豊かな景観づくり、そして都市と田舎の活気ある交流を掲げ、そこに向けた流域の木材を使ったラウベやセカンドハウスの建設促進を図り、古民家の再生や、空き家の活用等も進めながら、一層の地域経済の活性化を図ることとしている。

